

平成27年度パネル展（会期：平成28年3月23日（水）～6月19日（日））



古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015-2016

1 はじめに

船原古墳の遺物埋納坑は、圃場整備事業に伴う発掘調査により平成25年3月に発見されました。多量の馬具や武具等を納めた古墳時代後期の土坑で、全国的に注目を集めています。

今回のパネル展では、船原古墳と遺物埋納坑の発掘調査の成果と出土遺物の科学調査の最新情報についてご紹介します。

2 船原古墳・遺物埋納坑の発掘調査の成果

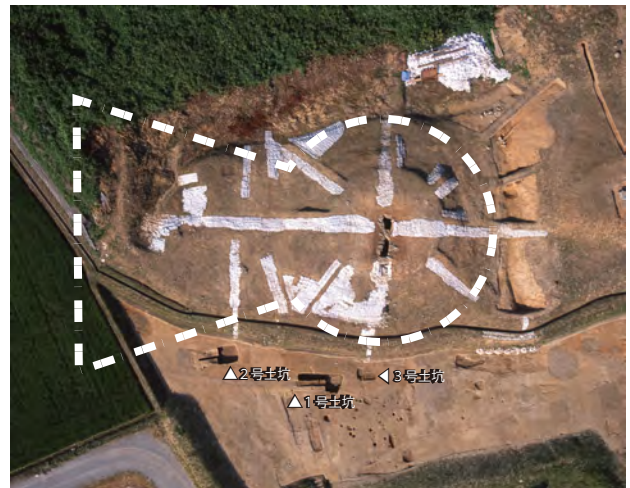
船原古墳は平成8年と平成26年に発掘調査がおこなわれています。当初は、墳径約20メートルの古賀市内でも有数の大型円墳と考えられていました。しかし、遺物埋納坑の発見により、古墳の規模を再確認することになりました。

平成26年に墳丘を精査した結果、船原古墳は全長45メートル以上の前方後円墳であることが明らかになりました。古賀市内では、現在のところ船原古墳以外には前方後円墳が確認されていないため、市内では初の発見となりました。石室は奥室と前室の二つの部屋を連結した「複室構造」であり、市内の古墳の中で突出したものであるといえます。

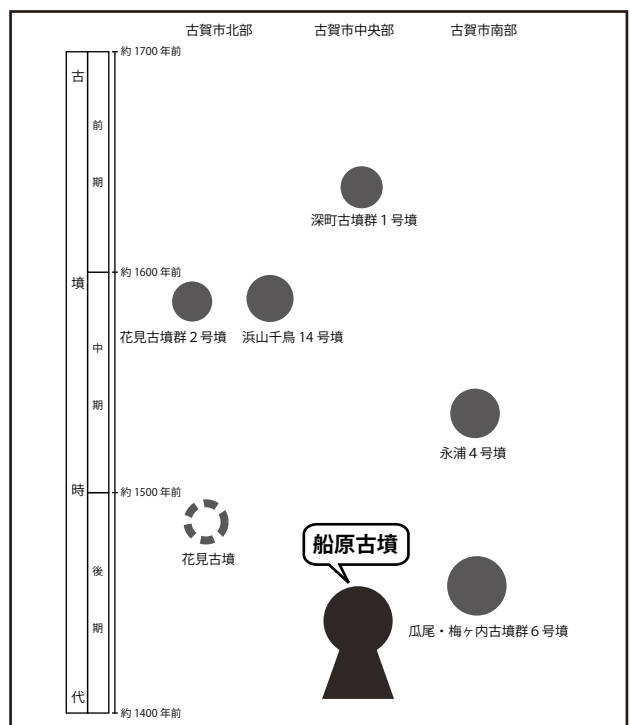
船原古墳と遺物埋納坑の位置関係を見ると、それぞれの土坑は古墳の向きを意識して配置されたと考えられます。また、2号土坑から出土した破片と、船原古墳から出土した破片とが同じ須恵器であることも明らかになりました。以上の点から、遺物埋納坑は船原古墳の付属施設または関連施設であることが証明されました。

平成8年と平成26年の発掘調査の成果により、船原古墳がそれ以前には前方後円墳が造られなかった古賀市域に、突如築造された前方後円墳であったということが明らかになりました。また、埋納坑から出土した高品質で多種多量の馬具や武器武具は、船原古墳に埋葬された人物が全国的にみても突出した存在であったことをうかがわせます。

ただし、船原古墳に埋葬された人が埋納坑から出土した豪華な品物を手に入れた人物であると考えられる割には、墳丘・石室の規模がさほど大きくないことは特殊であるといえます。今後の調査によって、このようなギャップの意味や船原古墳に埋葬されたのがどのような人物であったのかが解明されることでしょう。



▲ 船原古墳と土坑を上空からみた様子。破線は墳丘の推定ライン



▲ 古賀市内主要古墳の年表。大きさは実際の比率を反映（点線で描いたものは大きさが分からない古墳）

